

# 千葉県建築文化賞

## 第20回表彰作品集

千葉県建築文化賞創設20周年記念特集



2013年

主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

# 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成25年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の向上と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設され、今年度20周年を迎えました。これまで千葉県建築文化賞を支えていただいた歴代の選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に深く感謝申し上げます。

節目となる今回は、68点の応募をいただき、千葉県建築文化賞選考委員会による厳正な審査の結果、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞2点が選定されました。

受賞作品は、いずれも建築文化の向上につながるものであり、また、千葉の魅力を高め、地域の活性化にも貢献する素晴らしい作品です。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に寄与していくものと期待しております。

県では、新たな総合計画「新 輝け!ちば元気プラン」を策定し、県民の皆様が「くらし満足度日本一」を感じ、誇れるような「日本一の光り輝く千葉県」づくりを目指して、各種施策を進めているところです。

今後とも、千葉県建築文化賞表彰制度などの取り組みを通じ、県民の誰もが安全に安心して快適に暮らすことができる住まい・まちづくりを進めてまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、受賞者並びに応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

平成26年3月

## 目次

千葉県建築文化賞について	1	流山の集会所(前ヶ崎みどり自治会館)	9
第20回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	バスキッチンの家	9
山武市立しらはたこども園	3	千葉県建築文化賞の実績	
千葉ロッテマリーンズ屋内練習場	4	(応募点数・受賞作品数) 一覧	10
東京理科大学総合研究機構		<b>千葉県建築文化賞創設20周年記念特集</b>	
光触媒国際研究センター	5	千葉県建築文化賞の20年	11
THE FARM -AGRIZM PARK CHIBA KATORI-	6	千葉県建築文化賞過去表彰作品の紹介	12
さるすべり 百日紅のある家	7	歴代の選考委員一覧	21
Example-House	8	共催者挨拶	22

# 第20回千葉県建築文化賞選考経過と総評

## 応募68点から8点入賞

### (選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第20回千葉県建築文化賞は平成25年7月の委員会で募集要領を定め、7月中旬から9月中旬まで応募を受け付け、総数68点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

昨年度までは「景観上優れた建築物」「ユニバーサルデザインに配慮した建築物」「環境に配慮した建築物」の3部門に分けて募集を行っていたが、今回は「一般建築物」「住宅」の2部門に変更した。第一の理由は部門間の応募数の不均衡である。過去5年間の応募総数をみると、景観部門242に対してユニバーサルデザイン部門48、環境部門88であり、大きな差が生じている。ユニバーサルデザインと環境は、千葉県がめざす建築文化の柱であるが、応募数の減少はそれらの重要性が関係者に浸透し、当然の配慮事項になった結果とも考えられ、特別に部門を立てる必要性が薄れたと判断した。

部門の変更に戸惑われた方々がおられるかもしれない。しかし、「一般建築物」「住宅」という部門設定はベーシックなものであり、より広い視野で応募していただきやすくなっているため、ご理解をいただきたい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物7点、住宅5点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会にて、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞6点、建築文化奨励賞2点を表彰候補作品として決定した。一般建築物の授賞作品は農園、こども園、スポーツ施設、学校、集会所と多彩であり、住宅も規模・ライフスタイルともに多様な作品となった。幅広く質の高い作品に恵まれたといえよう。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
一般建築物		42	7	4	1
住宅		26	5	2	1
合計		68	12	6	2

### (総 評)

#### 一般建築物の部

一般建築物の部への応募は42点で、学校と公共施設に佳作が多かったが、授賞作品のうち3点は「その他」に分類される建築物であり、多彩な作品が寄せられた。

建築文化賞の「山武市立しらはたこども園」は、東日本大震災の津波被災を機に海岸部の幼稚園・保育園3園を移転統合して建設された。中庭と遊戯室を中心に保育室を配置し、立体的な回遊性を実現しており、こどもたちに快適な生活環境を提供している。また、円弧を描く大屋根の下にまとめられた建物は周囲の田園風景ともよく調和している。

「千葉ロッテマリーンズ屋内練習場」は、折り紙風船をモチーフにした構造で50m四方の屋内練習場を包み込み、威圧感のない端正な形態を実現している。川沿いの松林側に設けられたガラス張りのファン観覧スペースにも細やかな心配りが感じられる。

「東京理科大学総合研究機構光触媒国際研究センター」は、光触媒技術を活用した新規事業開拓を目的とした産学官連携研究施設である。外観には“光”をデザインに反映しようとする試みが随所に見られ、シンプルだがリズムカルで個性的な建物になっている。

「THE FARM -AGRIZM PARK CHIBA KATORI-」は、8.3haの敷地に貸し農園、クラブハウス、宿泊棟などを配した、土と親しむ余暇施設である。地元杉材を使い、環境に調和した建築群と、里山を活かしたランドスケープに加えて、遊休農地活用モデルとしての可能性が高く評価された。

奨励賞の「流山の集会所(前ヶ崎みどり自治会館)」は、老朽化した自治会館を自治会が主体になって建て替えたものであり、住民と若い設計者のコラボレーションが、困難な敷地条件のなかで明るく清々しい空間を実現している。

#### 住宅の部

住宅の部の応募は26点であり、県内各地から規模もライフスタイルも異なる多様な作品が寄せられた。

建築文化賞の「百日紅のある家」は和風の大規模住宅であるが、柔らかな軒線の大屋根で建物を包み込み、庭の木々と一体になって、閑静な住宅地の景観を引き立てている。自然素材を多く使い、隅々まで目配りの行き届いた質の高い作品である。

「Example-House」は、中庭を囲む凹字形プランの都市型住宅である。2層の住空間は中庭を取り巻いて一体化し、明るく開放的な室内環境を実現している。外観は白い箱状だが、ガラスの玄関ポーチと子供部屋の筒状の開口によって街並みに表情を与えている。

奨励賞の「バスキッチンの家」は、築40年、41㎡のマンションをリノベーションし、窓辺に浴室とキッチンのあるワンルーム戸戸とした意欲的な作品である。